

ジャズバーナジッ

米山美帆

一つの心になりみんなで作ることも定期演奏会

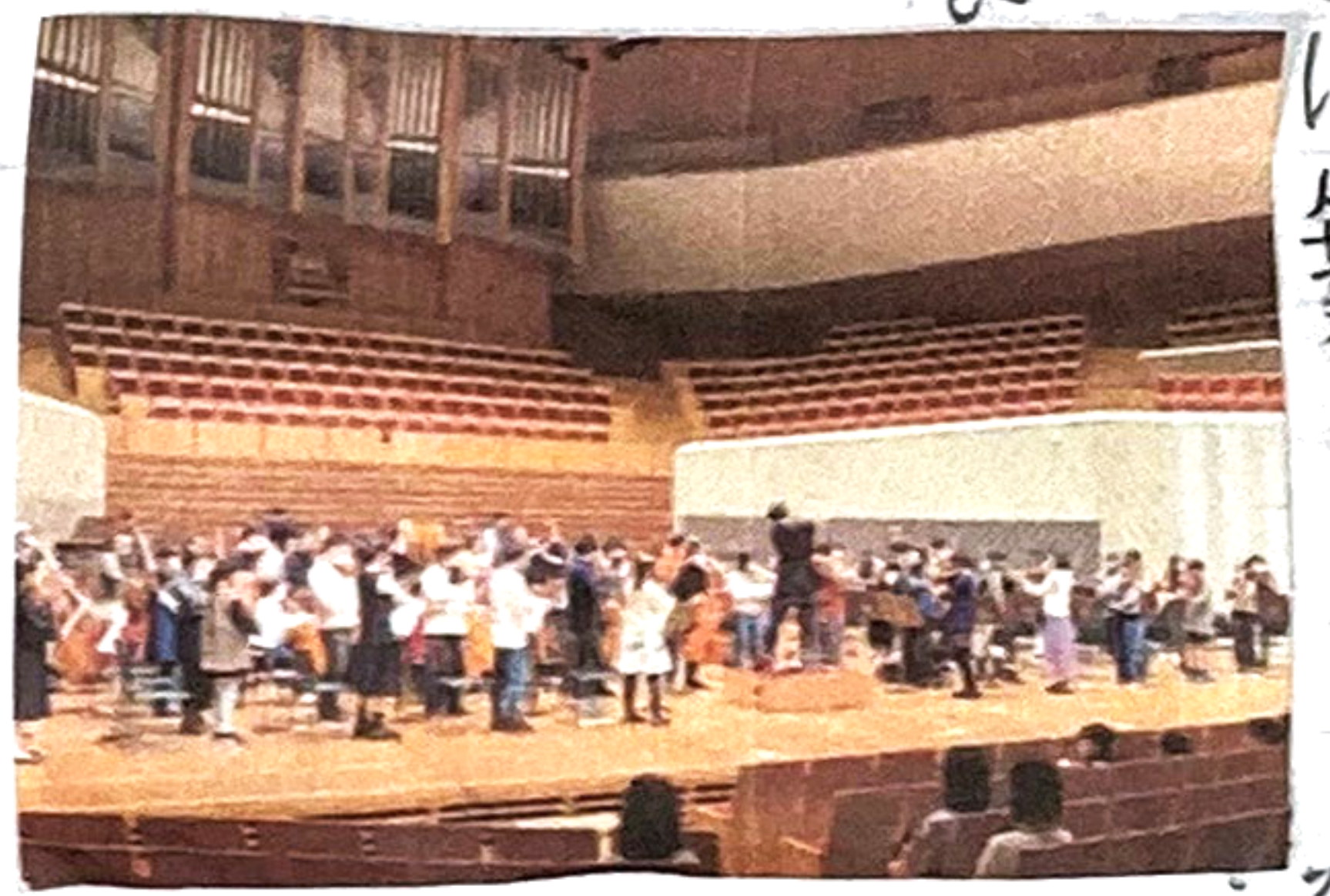
今回のことも定期演奏会には12月11日(日)サントリホールで開催されました。テーマは「タミのあそび」でした。そして今回はオーディションに受かった21名の子どもも奏者が「花のワルツ」とマシンの「そりすべり」をどうと演奏しました。

マエストロの原田慶太郎さんと子ども奏者たちと東京交響楽団の皆さんが「こきゅう」を合わせて一つの心となす。そして音楽を私達に届けてくださいました。

リハーサルではマエストロも演奏者も共に意見を出し合っていたが和気あいあいとし

たふんい気に進みます。そこには舞台上に立つ全ての人の人達のすてきな演奏会にしたいという思いが感じられました。マエストロの原田さんが奏者に「気になる所はありますか？」と確認しながらリハーサルを進めていることが印象に残りました。また子ども奏者の皆さんが演奏してくださったバレエ組曲「くるみ割り人形」より「花のワルツ」ではお茶会をいかに絵をきいたたり、音楽の色に例えたりして曲のイメージをふくらませながら共有していただきました。マエストロの原田さんが中心となり演奏者の方々と話しながらか音楽を作り上げていく過程はエネルギー

ギッシュでした。本番では舞台上の私たちの心が一つとなつて素晴らしい演奏でした。会場にいた皆さんはどのような感じでしたか？



マエストロの原田さんが一番大事にしていることは、作曲家がどのような気持ちでその曲を書いたのかを考へ、聴いている人に作曲家のメッセージを伝える、ということだそう

です。作曲家が生きていた時の時代背景を考へ、その曲に込めた想いなどをタクト(指揮棒)にのせて音楽を語るのだそうです。そしてオーケストラの奏でる音楽のじゃまにならないように意識して指揮をしているそ

うです。演奏会の中では、上田素生さんが作曲した「タミだ」も演奏されました。リハーサルには上田さんもいらして、作曲に込めた想いを東京交響楽団の方に伝えて音楽を完成させていました。私達は演奏会で聴く音楽を通して作曲家の気持ちにふれたい、タイムトリップしていろいろののだと思うと音楽は本当に奥が深いのだなと思いました。

人間には音楽が必要だ



私達はコロナ禍にあり、数年の間、学校行事がなくなり、演奏会に行く機会も減りました。その時ニュースで音楽はなくても生きていけると発言している人がいました。私は信じられなかった。音楽は心をおどろきまし

し、ゆたかにしてくれ。悲しい時、怒っている時に音楽を聴くと心が落ちつき、また楽しい気持ちになります。日々の生活の中に昔から音楽は息づいています。時代を超えて音楽は人の気持ちを共有したり、いやしたりすることができます。そして現代においても音楽は世界共通語です。音楽を通して気持ちを伝え合うことができます。音楽は人間に必要不可欠です。

来年もこの定期演奏会が開催されます。私達にとって毎年の楽しみになっているこの演奏会がこれからもずっと続きます。そして音楽が皆さんの心にもたくさん響きますように、と気持ちを込めて、この記事を終わりにします。関係者の方々そして、記事を読んでくださった方々に心から感謝しています。ありがとうございました。

